

---

## 「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」

(ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Program の開発) に  
本学のプログラムが採択されました。

---

### 「知識創造型ユビキタスな学びプロジェクト」

(携帯電話対応コメントカードシステムを活用した知識創造力の育成)

「現代的教育ニーズ取組  
支援プログラム」とは？

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」は、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から応募された取組の中から、特に優れた取組を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の活性化が促進されることを目的とするものです。

#### 平成 18 年度の公募テーマ

- ・地域活性化への貢献(地元型)
- ・地域活性化への貢献(広域型)
- ・知的財産関連教育の推進
- ・持続可能な社会につながる環境教育の推進
- ・実践的総合キャリア教育の推進
- ・ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Program の開発

採択された事業の概要等は以下のとおりです。

#### ( 1 ) 取組担当者

宮 田 仁 ( 滋賀大学教育学部・教授 )

#### ( 2 ) 取組の概要

知識創造型ユビキタスな学びプロジェクトとは大学の講義をそのままコンテンツ化して配信する知識伝達型の e-Learning ではなく、問題提起型のコンテンツを学習して自分の意見を毎回、携帯電話コメントカードシステムから送信し、ユビキタス環境で小グループでの問題解決演習を通して、知識創造型の学びの実現を目的とする取り組みである。社会が必要とする小グループ相互啓発方式による問題解決能力、各自の知識創造能力を身につけるためのコース開発を必修科目である全学共通教養科目を対象として行い、いつでも、どこでも時間や場所の制約を受けることなく知識創造型ユビキタスな学びが受講できることをめざす。従来の e-Learning コンテンツは提供型であったが、本取り組みでは受講者も知識創造に貢献できるブレンディド型 e-Learning を構築し、携帯電話を活用したディスカッションをきっかけとして最終的に対面講義での積極的発言や論理展開能力の育成をめざす。

### (3) 取組の趣旨・目的

滋賀大学の全学共通教養教育は、専門教育とは独立した教育課程で、本学の教育理念「グローバルな視野を持ち、人間性豊かな教養を備えた専門性の高い職業人の養成」の一環として、豊かな人間性の涵養と幅広い知識を背景に、広い視野から物事を考えることのできる能力を培うことを目指している。この能力の育成のためには、受講生各自が、講義中に自分の意見を発表し、受講生が講義で得られた知識を共有し、互いに知識創造を行い、それを元に問題解決を行っていく力が求められる。

まず、育成する人材像としては、「自分たちでテーマを設定し、チームによる問題解決をはかり、アイデアや新たな知識創造を行える、いわゆる自律的学習のできる人材、学習する組織の構成員となりうる人材」の育成である。高度情報通信社会においては、知的財産権という言葉にも表れているように、知識創造が社会の基盤となりつつある。NHKの番組「プロジェクトX」でも事例が頻繁にでてくるが、企業の中でもチームによる問題解決能力、自律的な学習能力、協調的な学習能力を発揮できる人材のニーズが益々高まっている。

次に、その人材の育成になぜ、e-Learningを活用する必要があるのか、本取り組みが求める成果や効果、独創性・新規性に関して説明する。本取り組みでは、サーバ蓄積型のインターネットを活用したWebベースのオンデマンド・コンテンツ配信を行う。従来型のe-Learningでは、知識提供型、知識伝達型のコンテンツが多く、大学の講義をそのままコンテンツ配信する形態が多く見られました。しかし、知識創造力を鍛えていくためには、課題のテーマに関して継続的に考え、自分の考えや意見を継続的に送信し、他者との意見の交換をして自分の考えを常にふり返れる学習環境の提供が必要となる。「いつでも、どこでも、テーマに関して継続的に考え続ける」ためには、現状ではパソコンを持ち歩き、インターネット接続環境、無線LANのホットポイントを気にしながら歩かねばならなかった。この問題を解決するためのe-Learningを活用した教育プログラムを今回、「知識創造型ユビキタスな学びプロジェクト」として提案する。

問題解決能力を育成し、知識創造型の学びを実現するために右表のように従来の全学共通教養科目の問題点を抽出し、その解決策を全学教育部会で策定した。対面型の講義実施時に講義映像や講義資料をリアルタイムでWebコンテンツ化し、講義のふり返りが即可能である環境を構築するとともに講義中の受講者からの意見や小レポートを携帯電話対応コメントカードで自動的にデータベース化して、受講者別にポートフォリオ化し、テーマに関して講義後も継続的に小グループで問題解決ができるユビキタス環境を提供している点に新規性と独創性がある。また、データベース化された受講生のコメントをカテゴリーにテキストマイニング技術で自動的に分け、受講者間のディスカッションの広がりや深まりを可視化できる機能を実装している点も知識創造や問題解決を支援する有効な道具として働く点で独創性・新規性がある。

問題点	解決策	キーワード
講義前に前時のふり返り学習ができていない	前回の講義のまとめをWeb形式で閲覧できる環境を提供する	講義のリアルタイムキャプチャとWebコンテンツ化
講義中、指名されても自分の考えを発表できない	携帯電話から講義中受講生の意見を収集し、自動的にデータベース化して表示する	携帯電話対応コメントカードデータベースシステム
講義後、学習テーマに関して継続的に議論が続かない	自分の意見がポートフォリオとして保存され他の受講者とも携帯で意見交換ができる	携帯電話対応ポートフォリオとチーム学習
↓		
対面講義とWebコンテンツを併用したブレンディッド型e-Learningを実施		

本プロジェクトでは、e-Learningコンテンツと携帯電話対応コメントカードシステムを活用し、e-Learning講義で活用し、受講者の書き込みや発言を共有することによって、知識創造型の講義アプローチへの支援をめざし、受講者が各自の意見を毎回表明し、問題解決能力を伸ばできるように取り組む。図1、図2、図3にイメージ図と画面例を示す。図2に一部分を示したように受講者全員が携帯電話からコメントカードを提出し、他者の意見や教員からの助言を取り入れながら知識創造を行うことが期待できる。本システムは、カスタマイズすることが可能であり、コンテンツ活用講義の教育モデルも提案できるので、他大学での教養教育改革に寄与できる点にも獨創性がある。

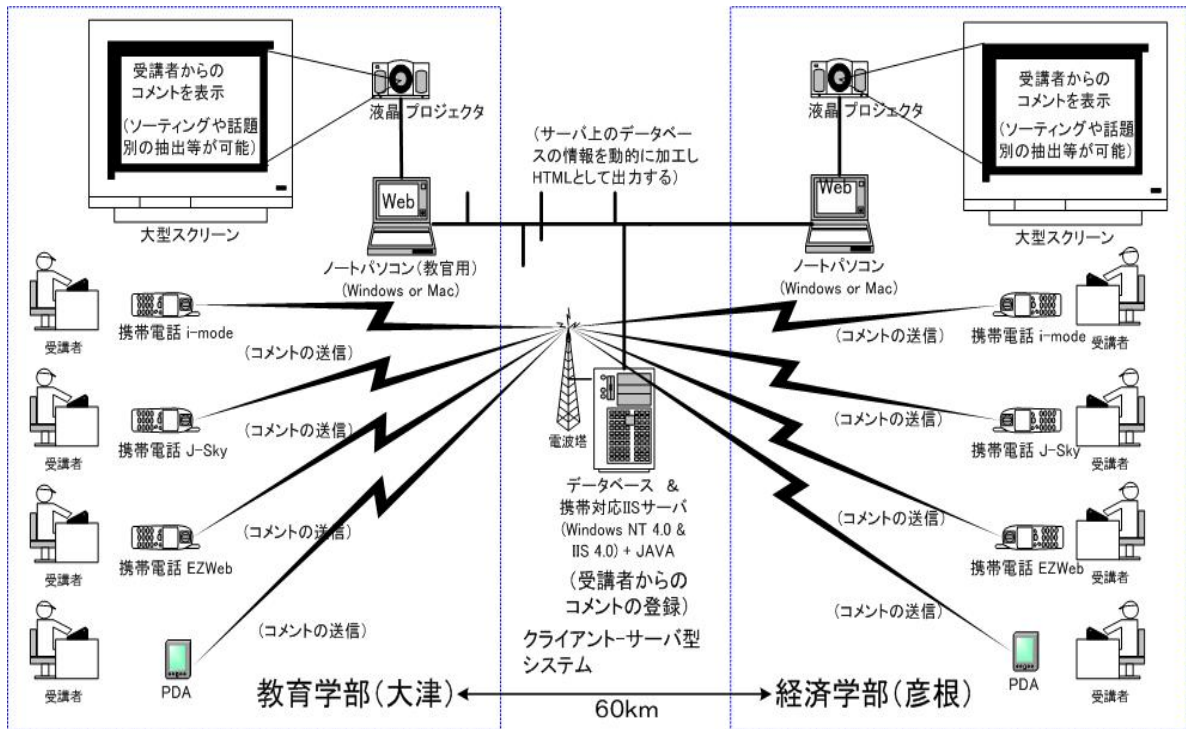


図1. 遠隔講義時や自宅からアクセス可能なユビキタスLearningのイメージ図

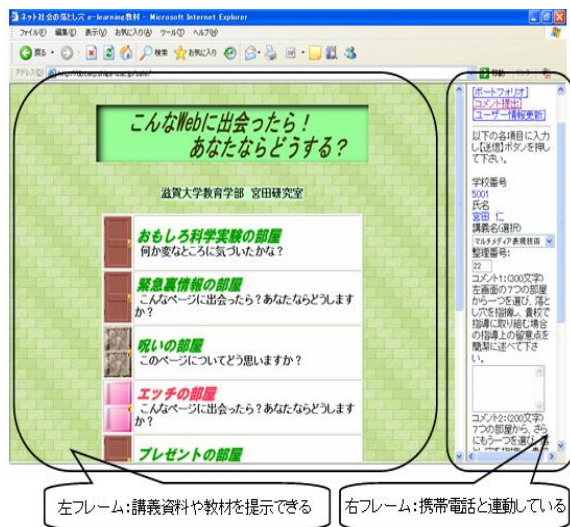


図2. コンテンツと携帯電話コメントカードとの連動

送信日付	学籍番号	氏名	コメント
2003/05/20 12:07:00	311	田中	私は学校におけるフィルタリングソフトの使用についてはやはり反対です。図書館では有害図書を置かないという話も聞きましたが、図書館の場合、教育者が有害情報を提供する必要はないという意味で納得できます。
2003/05/20 12:27:00	2039	佐藤	ある程度の年齢まではソフトを用いた上で有害サイトを見ないよう、何故見てはならないか等も含めた正しい情報を与えて教育し、判断能力を身につけさせてからフィルタをはずした教育に切りかえるのが良いと思う。有害情報の予備知識等を持たない幼少期に、流れ出てくるままの様々な情報に混じる有害なものを受け取ることは好ましくない。
2003/05/20 16:36:00	515	山田	今日のみなの意見を聞いて、それでもやはり私は反対である。問題は有害サイトを子どもが見るか見ないかではない。子どもが有害情報を信じるか、信じないかだ。
2003/05/20 20:47:00	7	鈴木	日本の今の教育制度から考えるならフィルタリングソフトを採用することに賛成。同じ年齢の子どもでも心身の発達是人それぞれである。有害情報がだめだと受け入れて、見ない姿勢を取れる子もいれば、取れない子もいる。他の人の意見にもあったように、高学年になったら何が有害なのか思慮分別が分かるように

図3. コメントカードのデータベース検索画面